

JAPAN GAME FISH ASSOCIATION

Vol.46/No.4 WINTER 2025

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

B E A R I S S U E

東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル & 沖釣りサーキット レポート

Tokyo Bay Seabass Game Fest & Offshore Fishing Circuit

JGFAアプリ紹介

JGFA App Introduction

日本記録・世界記録報告

New Japan and World Records

JGFA事務局 新スタッフ・インタビュー

New Staff Interview

And more



Photo by Masao Okumoto

www.jgfa.or.jp

「いい釣り」ってなんだろう？ 当協会のモットーにもある言葉ですが、それが意味するところは人それぞれなのが自然なことでしょう。事務局スタッフとして新しく勤務を開始された池田希世子さんは、それを「思い入れのある道具で1尾を手にとること」とおっしゃいました。彼女は、お気に入りのルアーのことを「この子」と表現する人です。

私にとってのいい釣りもそれに近く、事前準備の段階でも現場での体験においても、さらには帰宅後の振り返りにおいても、たっぷりと楽しめるということが肝心に思えてきました。私の好きなフライフィッシングはいまだに前時代的なところがあり、使用するフライはおもに自製です。いま私が凝っているのは、昔からあるシンプルなパターンを、現代の現場にも合うようにデザインを見直し、ていねいに巻いて使うことです。たとえば、下の写真にある「レイズ・フライ」は、鹿毛（バックテイル）を使ったパターンのアレンジで、何十年も前から使われていますが、この素材はアメリカの先住民たちが魚を釣る擬似餌に使ったものの1つです。フックも、普段から使っている日本最先端の製品ではなく、1960年代にノルウェーのマスタッド社が作ったものがマッチ。ごてごて巻き付けず、スリムに、重すぎないように作ります。皆様も、自分の「いい釣り」を見つめてみませんか。それが1尾との出会い体験に根ざすものであれば、私たちは力を合わせて、釣りのあり方を変えてゆけるのだと考えます。

ジャパンゲームフィッシュ協会
専務理事 東 知憲



2026年からスタート！ JGFAアプリ

ニュースやイベント情報、日本記録の確認などが簡単に！

2026年1月5日(月)から、各種イベント情報などが直接スマホに届くJGFAアプリの運用が始まります。会員の更新もスムーズに行えるようになるので、ぜひアプリのインストールをお願いします！

2026年から、JGFAでは会員の種別や年会費などを更新します。それと同時に、JGFAアプリの運用をスタート。これまで下田カジキ釣り大会をはじめ、沖釣りサーキット、東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル、フィッシングキャンプなどのイベント情報は、主にこの会報やメルマガ、HPなどで告知をしてきましたが、アプリを使用すれば気になるニュースが直接スマホに届くようになります。またアプリのホーム画面から、IGFAルールや日本記録の確認ページへも簡単にアクセス可能です。JGFA会員の皆様にとって、便利でわかりやすいアプリになるよう、今後もブラッシュアップを続けていく予定なので、ぜひインストールをお願いいたします！

アプリはページ下部のQRコードを読み込むか、リンクへ直接アクセスすることでダウンロードできます。ただし、運用開始は2026年1月5日を予定していますので、それ以降にアクセスしてみてください！

JGFAアプリのご入会 or ログインについて

入会を希望される方は、アプリをインストールして、「ご入会・ログイン」から「新規ご入会はこちら」を選択。会費プランを選んで個人情報を入力するうえ、カード決済を行えば、すぐにJGFAの会員になれます。なお会員の種別に関しては、下の表を参考にしてください。

すでに会員の方で、2026年も引き続き更新を希望される方は、2026年1月5日以降にアプリをインストールしてから、更新の手続きを行ってください。会員の皆様には、すでにお手元にIDとパスワードを発送しております。そちらを使用してログインをしてから、カード決済のお手続きをお願いいたします。

アプリのダウンロードはコチラ！▶



会員種別およびプログラム

会員種別	終身会員 Life Member	正会員 (クラブ代表含む) Senior Member	会 員 Member	クラブ メンバー Official Club Member	ジュニア 会員 Junior Member	アカデミー 会 員	賛助会員	サポーター (会員外)	会員外
入会金	一律 5,000円						一口100,000円 (一口以上)	寄付金 3,000円以上	
年会費	500,000円 年会費不要	15,000円	8,000円	35,000円	5,000円	10,000円			
議決権	○	○							
生涯会員番号付与	○	○	○	○	○	○ (代表者のみ)	○ (代表者のみ)		
審査員登録	○	○	○	○		○ (代表者のみ)	○		
記 録 申 請	ラインクラス (世界記録含む)	○	○	3,000円	○	3,000円	○		
	レンジス (世界記録含む)	○	○	3,000円	○	3,000円	○		
	オールタックル (世界記録含む)	○	○	3,000円	○	3,000円	○	10,000円	20,000円
	スペシャル クラブ	○	○	1,000円	○	1,000円	○		
各種コンテスト	○	○	○	1,000円	○	1,000円	○	○	3,000円
タグ&リリース プログラム参加	○	○	○	○	○	○	○		
タグ配布	○	○	○	4,000円	4,000円	4,000円	○ (登録者2名のみ)		
イヤープック	○	○	○	(購入可)	(購入可)	○ (代表者のみ)	○ (代表者のみ)	(購入可)	(購入可)
Web会報	○	○	○	○	○	○ (代表者のみ)	○		
メルマガ・LINE	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IGFA登録	○ (無償)	○ (希望者 実費)	○ (希望者 実費)	○ (希望者 実費)	○ (希望者 実費)		○ (2名 無償)		
アプリコンテンツ利用	○	○	○	○	○	○ (代表者のみ)	○ (代表者のみ)	△ (寄付金)	△ (寄付金)
アプリ会員更新	(不要)	○	○		○				
J I B T 選手登録	○	○	○	○	○		○		
BOL登録	○	○					○		

第41回 東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル

<結果レポート>



ルアー大物賞とシニア大物賞(83.5cm)を受賞した佐々木公明さん。
所属するチームBlue Waterでチーム賞(チームで釣ったスズキ5尾の又長合計で順位を決定)も受賞!

今年からJGFAの主催で行われることになった
『東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル』。
雨天にもかかわらず70名以上のアングラーが、
ランカーシーバスを求めて東京湾各所へボートを走らせました。
途中経過では80cmを超える魚をキャッチしたとの報告もありましたが、
最後に栄冠を勝ち取ったのは……?



ジュニア大物賞に輝いた井田宗治君(62.0cm)

1985年から続く 伝統あるフェスティバル 今年からはJGFA主催に!

1985年10月にスタートした『東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル』。ボートシーバスフィッシングのイベントで、「東京湾のシーバスをいつまでも釣れる環境にしておきたい」という趣旨のもと、当初はタグ&リリースイベントとして始まりました。現在も、バーブレスフックの使用や、釣った魚をすべてリリースすることがルールとなっています。

昨年の11月10日(日)には、節目となる第40回大会が行われ、ルアーフィッシングで釣られた最大魚は84cm、アングラーは植原正和さんでした。フライフィッシングでは高井雄一さんの67cmが大物賞を獲得。そして2025年の第41回からは、JGFAの主催として新たな一歩を踏み出すことになりました。

11月9日(日)のフェスティバル当日、

MOVIE

当日のようすは
下の画面をクリック!



気温は低く雨天ではありましたが、参加したのは74名(ゲスト含む)。今回は、それぞれのボートがホームの桟橋から出船するシステムでした。全員が集まっていたスタートではなかったため、LINEを使って開会式、スタートコールなどが行われました。

そして6時ちょうどに、各船は桟橋からスタート。それぞれがここぞというポイントまでボートを走らせ、釣りを開始しました。

今回のルールは、釣法はルアーもしくはフライフィッシングのみ。タックルはIGFAルールを適用しており、釣れた魚は又長を計測して、60cm以上の魚はメジャーと一緒に写真を撮影。入賞対象魚の場合は、表彰前に審査を行ないます。チーム賞は、5尾の又長の合計によって決定されます。そのほかにもチーム最多リリース賞や、ルアー大物賞、フライ大物賞、シニア大物賞、レディース大物賞、ジュニア大物賞などが設けられています。

途中経過では 本牧～観音崎エリアで 80オーバーも!!

9時頃に、LINEによって運営本部に途中経過の報告が届きました。各チームの最大魚は60cm台が多かったのですが、70cm台2尾、さらに80cm台も2



フライ大物賞の河本行弘さん(74cm)



レディース大物賞は榎本恵さんが獲得!(81.5cm)

尾報告されました。この時点での最大魚は、チーム名アッパーズの81.5cm。エリアは本牧ふ頭から観音崎にかけて。ちなみにチームBlue Waterの釣った80cm台も同エリアでしたが、結果を見た他のチームは、残り時間どう動いたのか……。

そして12時に、ストップフィッシング。17時から、横浜市中区にある『UNICO-FEE ROASTERY RE:JOURNAL』で表彰パーティーが開催されました。

審査の結果、見事チーム賞1位に輝いたのはBlue Water。5尾の又長合計は396.5cmでした。80cm前後の良型をそろえての栄冠でした! 続く2位はアッパーズで、5尾の又長合計は



チーム賞1位のBlue Waterメンバー



チーム賞2位のアッパーズ(5尾の又長合計351cm)。右に
いるのは審査委員長の猶原正和さん。



チーム賞3位の横浜ビルフィッシュクラブ(A)(5尾の又長
合計326cm)

351cm。3位は326cmの横浜ビルフィッシュクラブ(A)でした。チームで最多尾数をリリースしたのは、レッドヘッダーズAの29尾でした。

個人では、ルアー大物賞の1位が佐々

木公明さん(83.5cm/チーム:Blue Water)。フライ大物賞は河本行弘さん(74cm/チーム:RIPTIDE)。シニア大物賞はルアーと同じく佐々木さんが1位となり、レディース大物賞は榎本恵さん(81.5cm/チーム:アッパーズ)、ジュニア大物賞は井田宗治君(62cm/チーム:RKFC)が受賞しました。

●チーム賞

順位	チーム名	5尾の又長合計(cm)
1位	Blue Water	396.5
2位	アッパーズ	351.0
3位	横浜ビルフィッシュクラブ(A)	326.0

●チーム最多リリース賞

順位	チーム名	尾数
1位	レッドヘッダーズ A	29

●個人賞優勝者

賞の名称	氏名	又長(cm)
ルアー大物賞	佐々木 公明	83.5
フライ大物賞	河本 行弘	74.0
シニア大物賞	佐々木 公明	83.5
レディース大物賞	榎本 恵	81.5
ジュニア大物賞	井田 宗治	62.0
ボートキャプテン賞	佐々木 公明	—

仲間を集めて ボートシーバスフィッシングに挑戦!

雨天ではあったものの、表彰パーティーを含めて最後まで盛り上がった、今年の東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル。来年も同時期に開催予定なので、興味のある方はぜひ参加を! 世界有数の大都市・東京の海で80cmオーバー、運がよければメータークラスもねらえる夢のあるゲームを、あなたも体験してみたいか?

ボートシーバスフィッシングに興味のある方なら、初心者でももちろん大歓迎。チームでの参加(各チーム:船長含め2名から6名まで)となるので、仲間を集めて来年はエントリーしてください!

JGFA沖釣りサーキット2025 第2戦・第3戦 結果レポート

「沖釣りもIGFAルールで」という
故・服部善郎名人(JGFA名誉会員)の呼びかけで、
2005年から始まったJGFA沖釣りサーキット。
2025年の第2戦タチウオ大会、
および第3戦カワハギ大会のようすをレポートします！



大型タチウオも多数釣れました！



ポイントには船団が……



見事優勝した下留憲政さん



下留さんが釣った131cmのドラゴン

第2戦 タチウオ大会

10月19日(日)、第2戦の沖釣りサーキットでは、今期好調が伝えられるタチウオをねらいました。第1戦に続き、神奈川県金沢八景『一之瀬丸』様のご協力で開催。IGFAルールやバググリミットを守り、総勢19名が釣りを楽しみました。

【大会要項】

▼開催日:2025年10月19日(日)

出船7:00 沖上がり14:00

▼場所:神奈川県金沢八景『一之瀬丸』

▼審査:全長70cm以上のタチウオ3尾の総重量(それ以下は対象外、同重量の場合は年齢が高い人優位)

▼ルール:IGFAルールに準ずる(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本までなど)

▼その他:釣法はテンヤ釣法、またはジギング。テンヤは40号統一。バググリミットは全長70cm以上のタチウオ5尾まで、他魚種含め10尾まで(何尾釣ってもOKですが、持ち帰りはバググリミットを厳守)

▼参加人数:19人

【当日の状況】

前日までのやや強い南西風は向きを変え、北よりの風に変わりましたが、少しざわついた波が残る東京湾を、参加者19名を乗せた金沢八景『一之瀬丸』は走水沖へと向かいました。

すでに数艇の釣り船が横一列で待機。釣り開始時間になり、どの船もいっせいに仕掛けを投入。すぐにあちこちで指3〜4本のタチウオが釣れ始めました。左舷側で何尾か釣れましたが、開始当初、右舷側は静まり返っていました。

水深55mくらいから40mの間を、リールを超微速で巻きながらサオを高速でシャクる「パイブレーション」で誘ったり、テンピン仕掛けの釣りのように、シャクっては50cm巻きを繰り返してみたり、超微速でタダ巻きしてみたりと、それぞれがあの手この手でタチウオからのコンタクトを待ちます。

テンヤのヘッドの色や形状も様々。エサは船宿で用意してくれた大きなマイワシや、自宅で作ってきた塩漬けイワシ、小アジなど。それぞれが釣り方や仕掛け、エサを工夫していました。

アタリがあっても乗せられなかったり、水面近くで逃げられたり、あっちでもこっちでも悲鳴が(笑)。サイズは指3〜4本のもので多かったのですが、1kgオーバーのドラゴンサイズも6尾あがり、最大魚は左舷の下留憲政さんが釣った131cm・1.75kgの立派なドラゴンタチウオでした。

好釣果に恵まれた沖釣りサーキット第2戦。今大会も和気あいあいとした、楽しい釣行となりました！

【結果】

優勝 下留憲政さん(3.40kg/3尾)

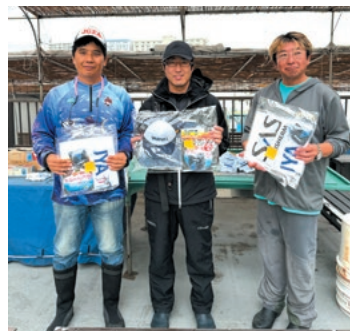
2位 舟橋夢人さん(3.05kg/3尾)

3位 福永雄海さん(3.05kg/3尾)

全長70cm以上のタチウオ3尾の総重量
同重量の場合は年齢が高い方が優先



釣果に恵まれ、大会は無事終了！



左から2位の舟橋夢人さん、優勝の下留憲政さん、3位の福永雄海さん

第3戦 カワハギ大会

比較的ライトなタックルでねらえるカワハギは、関東では人気の高い沖釣りターゲットです。とくに冬期は、肝が大きくなった通称「肝パン」がねらえるとあって、多くのアングラが船宿に訪れます。2025シーズン第3戦は、神奈川県小網代『丸十九』の協力で開催。21名が釣りを楽しみました。

【大会要項】

▼開催日:2025年11月15日(土)

出船7:30 沖上がり14:00

▼場所:神奈川県小網代『丸十九』

▼審査:全長18cm以上のカワハギ3尾までの総重量(それ以下は対象外、同重量の場合は年齢が高い人優先)

▼ルール:IGFAルールに準ずる(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本までなど)

▼その他:PEラインは2号まで。オモリは25号を使用。バグリミットは全長18cm以上のカワハギ10尾まで(何尾釣ってもOKですが、持ち帰りはバグリミットを厳守)

▼参加人数:21人

【当日の状況】

晴天に恵まれた大会当日。小網代沖で釣りをスタートしたものの、最初の頃は魚

の反応は少ない状況でした。カワハギ釣りのゲストとしてよく釣れるトラギスやササノハベラも少なめで、「生体反応がないね～」と『丸十九』船長の小菅裕二さんも苦笑い。

水深15~20mのポイントを中心に、魚を探して移動を繰り返すうち、やがてゲストのアタリに交じって本命からの反応も出るように。釣れると良型であることが多く、また高級魚のホウボウやアカハタも釣れて、船上はにぎやかに。この日の竿頭は、福永雄海さんと釣果は5尾でした。

14時沖上がりで帰港後、いよいよ検量。見事1位になったのは、井上一一さん。18cm以上3尾の総重量で競うこの大会でしたが、2尾で750gという成績での優勝でした。続く2位は福永さん(750g/3尾)。同重量でしたが、年齢の高い方が順位が上になるというルールで惜しくも優勝を逃しました。そして3位は、鈴木康夫さん(700g/3尾)でした。

【結果】

優勝 井上一一さん(750g/2尾)

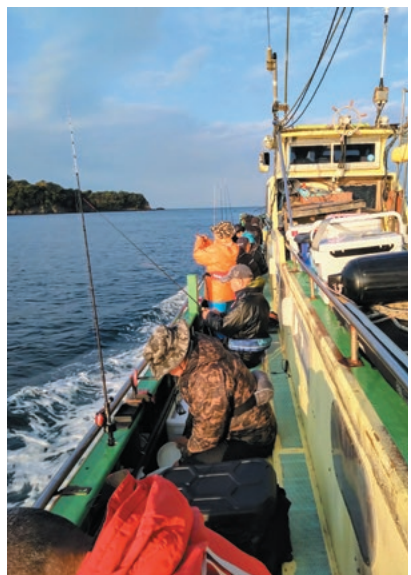
2位 福永雄海さん(750g/3尾)

3位 鈴木康夫さん(700g/3尾)

全長18cm以上のカワハギを対象に、3尾の合計重量
同重量の場合は年齢が高い方が優先



最初こそアタリが少なかったものの、後半はジュニアの参加者にも良型が!



第3戦は小網代『丸十九』の協力で開催



左から3位の鈴木康夫さん、優勝の井上一一さん、2位の福永雄海さん



数はいまいちだったが、釣れれば良型が多かった



沖釣りサーキットは初心者への参加も大歓迎! 来年はぜひご参加を!

初参加の方も安心!

JGFA沖釣りサーキットは、初心者から経験者まで楽しめる大会です。子どもや初参加の方も多く、船長やスタッフのサポートを受けながら釣りを楽しむことができます。沖釣りのルールやマナーがよくわからない方も、気軽に釣りを楽しむことができる大会です。

◆釣り方のアドバイス:参加者同士で情報交換しながら、釣りのコツを学ぶことが可能。

◆適切なポイント選び:経験豊富な船長が状況を見極め、釣果が期待できるポイントへ案内。

◆魚の持ち帰りサポート:釣った魚の処理やバグリミットについての知識を事前に共有初めての方でも安心して楽しめる大会となっているため、「沖釣りをやってみたい!」という方はぜひ次回の大会にチャレンジしてみてください。



2024年6月、長崎県・対馬での一コマ。ジギングでヒラマサを掛けた池田希世子(いけだ・きよこ)さん

美術系と体育系の間に 池田希世子さん

JGFA(以下**JG**) 新事務局スタッフ、お2人のうちの1人が池田さんです。皆様に池田さんのことを知っていただくために、近い過去のことから伺いましょう。「協会で仕事をしてみたい」と思われたきっかけは何ですか？

池田希世子(以下**KI**) 釣りに関係する仕事に携わりたかったからです。以前の仕事も釣り具関係でした。

JG 昔から、釣りは好きだったんですか？

KI 釣りをやり始めたとき、自分の竿を自分で作りたいと思ったところからスタートです。小さい時は祖父といっしょ



ベイブリッジの直下で釣り上げた東京湾のクロダイ。ボートからでもヘチ竿を使うことが多いとか

JGFA事務局

新スタッフ・インタビュー

今秋、事務局に2人の新スタッフが加わりました。

すでにフルパワーで稼働しています、なにとぞよろしくお願いします。

釣り好きという点は共通しながらキャラクターをお持ちの

新人・池田希世子さんと真野秋綱さんの素顔に迫りました！

に、近所でコイを釣ったりはしていました。私の子供が小さいときには水元公園へタナゴやクチボソを釣りに行きました。しかしまだ、道具が云々というところまでは至っていませんでした。しかし釣具屋さんに行ったときに、ルアーを見てかわいいと思い、集めて家に飾るようになりました。

JG コレクションの対象で、使う段階ではないんですね？

KI 最初は飾りです。しかしだんだん、使わないのもかわいそうだなと思い始め、子供がある程度大きくなった時点で、バスを釣ってみようと考えました。しかしロッドに関しては、自分が使うのであればこんな色があればいいのに……となり、作りたくなりました。

JG でも、いきなりカスタム製作というのはハードルが高いですね。

KI はい、最初は現行で手頃な値段のものを入手し、使っていました。その当時はリサイクルの仕事をしていましたので、買取で入ってくるオールドタックルに触れるようになると、「可愛いがあるじゃない」と思いました。そこから転職をするにあたっては、釣り竿製作関係でどこかないかな、と探していたら、家の近くに釣具関係の工場があり、運よく就職できたんです。

子供の頃は
絵が好きで……

JG きっと子供の頃から、クラフトないしアート系な志向があったんですね？

KI 絵が好きで、学校も美術関係を選びました。ですから釣具も、色に対するこだわりがあります。

JG 普通の釣り人の、タックルに関する見方とはすこし違うかもしれないですね。バス釣りを通過して、それからどうなるんですか？

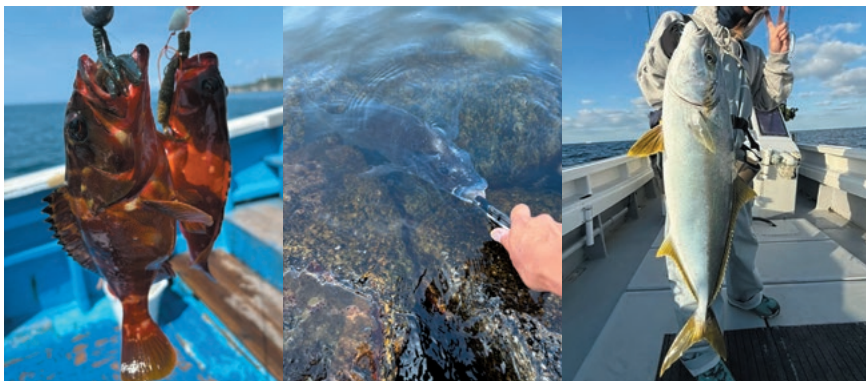
KI 似たような場所で釣れる雷魚をやって、次にトラウトをやってみました。仕事が変わったことがきっかけになり、人と会うことが増えて、「海の釣りをやってみませんか？」という話になり、次に東京湾でシーバス、クロダイ、タコ(笑)など、外房や南房でアカハタ、タイなどを体験しました。

JG 順調な対象拡大！

KI やっていくうちに、ヒラマサの釣りはこんなだよと動画を見せてもらおうと、テンションが上がってしまって、そちらもやることになりました。

JG でもいきなり、外海の大物はたいへんだったでしょう？

KI ロッドさばきとか船上の動きとか、1年をかけて練習してゴーができました。



左から千葉県・御宿のアカハタ、自宅近くの東京湾で釣ったというクロダイ、2025年11月に対馬で釣り上げたヒラマサ

JG 自転車にラインを縛り付けて走らせるとか？

KI いいえ、ドラグチェッカーで計測しながら「これくらい耐えられないとムリだね」とか言われながら……。

JG スパルタ式ですね。

KI 仕事の休憩時間に「5kgのテンションはこれくらいだ！」という感じで練習しました。

今冬はヒラマサねらいで 対馬に遠征

JG 水元公園から今に至るまで、何年くらいかかっているんですか？

KI 15年くらいでしょうか。子供が小さいうちは近場限定でしたが、高校生になった頃からはすこずつ、たとえば外房でヒラマサのキャストイングなど、遠出ができるようになりました。外房はかなり難しいと聞いていて、そこで釣れればどこでも通用するという話です。スレていきますから食わせるのが難しいですし、浅場なので早く上げるためにさばき方もシビアに考えます。

JG どれくらいの水深を釣るんですか？

KI 他のエリアの方々はおそらくやらないような深さでジギングをします。15メートルとか30メートルですね。トップウォーター・プラグで釣るときは、水深5メートルっていう場合もありますよ。

JG 培ったテクニックは、他のところで釣りをするときにも役に立ちそうですね。

KI キビシイ釣り場で修行すると、いろいろなパターンが身につくと聞いています。まだ実感はないですが。

JG この冬もけっこう通っていらっしやるみたいですが、いま旅の目的地として熱いのは？

KI この冬は対馬通いですが、来年は中国地方にも。ヒラマサの釣れる水域が日本海の東側にずれ始め、釣期も変わってきていて、春先は中国地方がよいらしいんです。

JG 去年釣った魚で「これは感動！」っていうのはありますか？

KI いちばん嬉しかったのは、家の近くの川で釣ったクロダイです。釣り上げるまでに何度か足を運んでいて、バラしもしていたのでそれだけ感動しました。釣り上げられて、とても嬉しかったです。



前職では竿の修理なども行っていたという池田さん。こちらのガイドも自身で取り付けしたもの



「顔が可愛いからずっと欲しかった」というジグ。魚にとっても魅力的だったのか、1日でここまでボロボロに

JG 近々釣ってみたいターゲットは？

KI キハダとシイラですね。仕立船でなかなか人数が集まらず、ここ数年目論んではいるんですが、実現していないんです。

JGFAの活動を 多くの人に知ってほしい

JG 池田さんにとって「いい釣り」って何ですか？ どんなことが起きたら、その日は満足ですか？

KI 道具への思い入れが強い方ですから、「これを使って1尾」とあらかじめ思い定めたもので釣れたときは、ヨシっと思います。たとえば、ずっと何年も欲しかったジグがあるんですが、それをようやく手に入れて、このまえ対馬で使うと、いちばん釣れました。本当に嬉しかったです。なくすこともなく、魚の歯できれいにボロボロになってくれたので、満足しています。

JG かなり、行ってますね！ 最後に

伺いたいのですが、協会職員になられて、これから「こんなことに関わってみたいな」という領域はありますか？

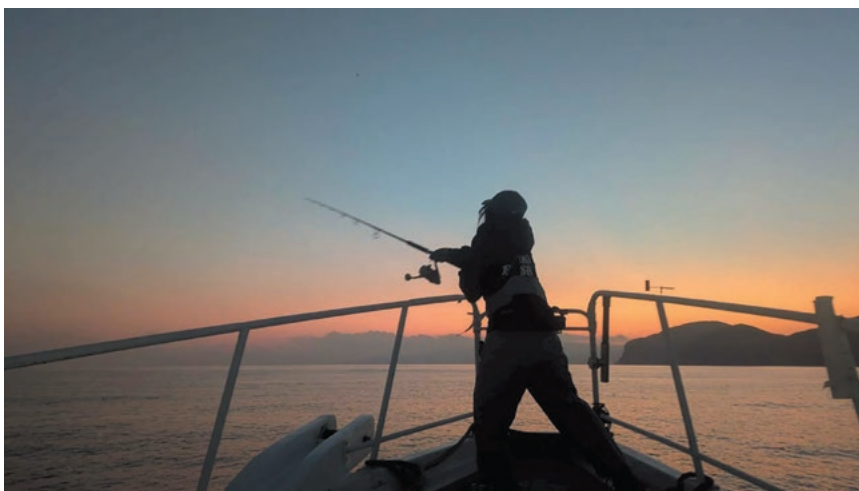
KI まだ覚えることが多くて、仕事のビジョンというのも漠然としているのですが、もっと多くの人にジャパングームフィッシュ協会を知ってもらいたいと思います。知らない人も多くて。

JG おっしゃるとおりで、広報のニーズはつねに感じています。

KI メーカーにお勤めの方々でも、私たちがどういう活動をしているのか具体的にご存知ない人がいらっしやいます。

JG 私たちの活動内容は、釣りの振興と資源保全に真剣に向き合っていますので、ぜひもっと多くの人に知っていただきたいですね。新スタッフの皆様には、そちらも期待します！

KI できることがあればがんばります！



2025年12月、夕暮れの対馬の海でフルキャスト。JGFA事務局に入った後も、池田さんは時間を見つけては各地で釣りを楽しんでいるそう



東京都八丁堀にあるJGFA事務局にて

タガメから魚へ 真野秋綱さん

JG 実は私たちは真野さんが「つり人」「溪流」「鱒の森」「フライフィッシャー」、北海道に赴任してからは「ノースアングラーズ」といった釣り雑誌の編集に関わっていらっしゃる頃から存じ上げているんですが、事務局にお入りになる前にはまた別の仕事をされていたんですよね？

真野秋綱（以下**TM**） はい、ウイスキー文化研究所というところで、広報誌の編集に携わっていました。研究所はさまざまなフェスティバル、イベントや検定試験などもやっていますので、それらにも関わりました。

JG 大学・大学院でのご専門は生物関係と伺っていますが、魚も研究対象だったのですか？

TM 大学は信州大なので近所の川で釣りは軽くやっていたのですが、釣り

の出版社の面接を受けた時には「そのレベルであれば溪流釣りをしているとは言わない」と（笑）。就職してからは、厳しい源流にもあちこち行きました。

JG エリート揃いですからね。いま趣味でやっている釣りのジャンルは何ですか？

TM フライです。冬のオフシーズンは、船からカワハギなどもやりますが。

JG 川釣りは体力とリンクしていると思いますが、衰えは感じないですか？

TM それは、感じますよ！ まあでも、こと北海道に関して言えば、クマの件もあってあまり車から離れないですから、体力的なことはあまり実感がなかったのですが、本州をやるとやはり。ただ昔からの知り合いや友人は均等に年齢が上がってきていますから、気楽に行けます。

JG 今年は、溪流釣りはしっかりできたんですか？

TM いいえ、あんまり行けてないですね。もっぱら奥多摩でした。

釣りのルールやマナーを わかりやすく周知したい

JG 釣りのジャーナリズム方面に長いこと関わってこられたわけですが、釣りのあり方で「ここは困るなあ」という問題はどんなところに？

TM 魚をどの程度持って帰るかという基準に関しては、ジャンルごとに相当

違います。フライの方面は相当リリースが徹底していると思いますが、たとえば源流の釣りになると魚も食糧計画に入ってきますからある程度はキープする。船釣りは、伝統的に競技的側面もありますから持って帰る数は多くなります。手軽な堤防の釣りは、食と強くリンクしていますね。やはり「節度を持った」収穫というのが大事でしょう。

JG 状況を的確に見据えた上での良識ある判断、が必要だと思いますね。長期的に、巡り巡って自分の首を締めるようなことはよろしくない。遊漁ライセンス制は、静岡海域のカジキ釣りには適用されていますが、私たちが求める海の魚一般に広くライセンス制を適用すべきかというのは、管理体制の実現可能性も含めて議論されないといけないでしょう。その前段階としての、自主的かつ良識的なアングラーの判断を、促していきたいと思っています。

TM あとは、不文律的なところも含めて、マナーやルールが理解されていないケースも多そうです。溪流では先行者の近くには入らないとか、堤防ではどれくらいの距離が適切なのかとか、わかりにくいですよ。それを伝えてあげれば、初心者でも無用のトラブルを避けることができると思います。法律ではないので個人的なブレもありますが、JGFAが提唱している現在のバググリミットって、いつ決められたものですか？

JG 時代に応じて見直してきているん



真野秋綱（まの・としつな）さんが中国地方某所で調査していたタガメ。苦手な方が多いかも……？



2025年はあまり釣りができなかったという真野さん。本州では源流域で遊ぶことが多いとのこと



『ノースアングラズ』編集部にいたときは、主にフライフィッシングを楽しんでいた真野さん

ですが、かなりの歴史があります。10年や20年の話ではないですよ。(注：過去の記録をみたところ、最初にスズキやシイラのバググリミットを提唱したのは2002年)

「いい釣り」のために

TM それにしても、「リリース」っていう言葉は、釣り人はもちろん、一般の方々にもかなり浸透してきてはいますよね。

JG わかりやすい言葉だっていうのも関係があると思いますけど、スポーツフィッシングという概念の浸透と歩調が合った感じですね。白黒はつきりしていますし。それに対して「リリース」と「バグ＝キル」の境目をどこに置くかというのは、拘束力を持つルールがない状態ではとっても難しい判断です。食材としても魚を重視したいという人はもちろん一定数います。私たちはバググリミットの提唱を通して、「釣りの影響を受けやすい魚はいるんですよ」「そんな魚はできるだけ持って帰らないようにしましょうね」と言い続けるしかないんだろうと思います。もちろん、説得力のあるいろんなキャンペーンを展開していく予定ではありますよ！

TM 沖釣りとかは、ハードル高そうですね。

JG たくさん釣っている船が腕のよい船、っていう判断はもちろんあって、スポーツ新聞とかの釣り欄を見ても、かつてはそんなイメージでしたし、選ぶときの参考にする場合でも、尾数が多いほうを選ぶ。しかし現代のように情報の発信元が分散して個々になってくると、気持ちのいい釣りをさせてくれる船宿



道北某河川、ドライフライに出た50cmオーバーのニジマス



「2026年は、また北海道でロッドを振りたいですね」と真野さん

がよい、ってなってくると思うんです。その「気持ちのいい」のなかには、「環境や資源に対して配慮している」というアイテムも、きっと入ってくるはずですよ。

TM 私がカワハギ釣りに行くときも、ワッペンサイズなんて料理もできない

からリリースしちゃいますし、バググリミット超えの釣果なんてまずないですけど。

JG 新時代の「いい釣り」を実現していきたいですね。なにとぞよろしくお願いします。

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 (ラインクラス部門) W =女性 J =ジュニア男性 JW =ジュニア女性 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジスレコード FAL =オールタックル・フライ・レンジスレコード

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うこといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクスズギに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

<記録方式>

魚の標準和名、英名、学名の後、●ラインクラス、●記録(魚の重さ、叉長、全長)、●釣行場所、●釣った日、●氏名、●所属(クラブ名または会員種別)、●船名の順に記載されています。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!
大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためです、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<クエ> GROUPER, longtooth / *Epinephelus bruneus*

●M-60kg(130lb)クラス ●32.93kg ●神戸島 銭洲 ダルマ岩礁群 ●2025/10/12 ●村山 海斗 ●ジュニアアングラズクラブ

<バショウカジキ> SAILFISH, Pacific / *Istiophorus platypterus*

●W-15kg(30lb)クラス ●36.89kg ●鹿児島県 阿久根沖 ●2025/8/23 ●石志 梢 ●チームアルカディア ●アルカディア

<ハマフエフキ> EMPEROR, spangled / *Lethrinus nebulosus*

●W-15kg(30lb)クラス ●1.05kg ●沖縄県今帰仁沖 水深40m ●2025/10/24 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●ハイサイ丸



村山 海斗 <クエ 32.93kg>

カンパチを狙って銭洲に行きました。朝から投入を繰り返していると、強烈な引きが。一度根に入られてしまいましたが、しばらくすると出てきて、あとは必死にファイトしました。水面にポコッと浮いてきた瞬間は一息忘れることができません



石志 梢 <バショウカジキ 36.89kg>

今シーズン初回の出航で早朝からヒット。ジャンプで姿を見た時はあまり大きく感じず、リラックスして巻き上げ、船に取り込んでみると大きさにビックリ。海の恵みに感謝です!



浅野 法子 <ハマフエフキ 1.05kg>

なかなか魚が釣れなく渋いなか、やっと当たりがきました、大ききわりに強い引きが楽しめてよかったです

FRESHWATER FISHING <淡水の釣り>

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-24kg(50lb)クラス ●1.67kg ●京都府 宇治川 ●2025/9/28 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-37kg(80lb)クラス ●3.34kg ●埼玉県 元荒川 ●2025/9/21 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●M-6kg(12lb)クラス ●14.94kg ●茨城県 常陸利根川 ●2025/9/30 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<ブラウントラウト> TROUT, brown / *Salmo trutta*

●M-4kg(8lb)クラス ●2.43kg ●栃木県 中禅寺湖 ●2025/9/17 ●三上 隼平 ●フィッシュ&フィンズ ●おかじん



竹内 尚哉 <ハクレン 14.94kg>

ハクレン狙いで霞水系にチャレンジするとメーターオーバーができました。15kgに迫る個体はなかなか釣れないので、とにかくうれしい限りでした



三上 隼平 <ブラウントラウト 2.43kg>

シーズン終盤の中禅寺湖で素晴らしいブラウンに出会うことができました

SALTWATER FLY FISHING <海水のフライフィッシング>

<スマ> KAWAKAWA / *Euthymnus affinis*

●W-10kg (20lb) クラス ●1.66kg ●鹿児島県 奄美大島 ●2025/10/16 ●諫山 綾香 ●レギュラー会員 ●あず丸

W

<メジナ> BLACKFISH, Largescale / *Girella punctata*

●M-1kg (2lb) クラス ●0.50kg ●広島県 阿多田島浅橋 ●2025/10/25 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●シンエイ渡船

CR

<ツムブリ> RUNNER, rainbow / *Elagatis bipinnulata*

●M-10kg (20lb) クラス ●4.77kg ●高知県 吉良川沖カセ ●2025/11/16 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●海神



諫山 綾香 <スマ 1.66kg>

ガイドの下見中、キャストレンジにナブラが沸きヒット。直感的にイケると思ったので、青物の引きを楽しみながらランディングできました



田村 紘一 <ツムブリ 4.77kg>

表層にエサ取りが沸き、完全フカセだと刺し餌が瞬で食われる状況だったので、フライタックルに持ち替えて釣りしました

ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<アゴハタ> SOAPFISH, bearded / *Pogonoperca punctata*

●オールタックル ●0.60kg ●沖縄県 北谷沖水深90m ●2025/9/27 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●はなぶさ

<オオヒメ> JOBFISH, crimson / *Pristipomoides filamentosus*

●オールタックル ●3.25kg ●鹿児島県 喜界島手久津久沖 水深70m ●2025/10/3 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●天人菊

<アマミフエキ> EMPEROR, trumpet / *Lethrinus miniatus*

●オールタックル ●2.70kg ●鹿児島県 喜界島手久津久沖 水深70m ●2025/10/5 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●天人菊

W

<クサヤモロ> Mackerel, scad / *Decapterus macarellus*

●オールタックル ●0.78kg ●千葉県 館山市布良瀬 ●2025/8/18 ●熊木 恵美子 ●ファミリー会員 ●第八安田丸

W

WR

<サザナミフグ> PUFFER, white-spotted / *Arothron hispidus*

●オールタックル ●1.40kg ●高知県 吉良川沖カセ ●2025/11/8 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●海神

CR

WR =世界記録 (ラインクラス部門) W =女性 J =ジュニア男性 JW =ジュニア女性 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジスレコード FAL =オールタックル・フライ・レンジスレコード



坂本 幸博 <アコハタ 0.60kg>

沖上がりの時間も迫り、「今日も釣れん」と「最後まで諦めない」の気持ちで交錯するなか、引きは弱いが重みを感じる手応えの魚がヒット、すぐにアコハタとわかる模様。初めて釣る魚はうれしさ倍増!



浅野 俊吾 <オオヒメ 3.25kg>

ボトムでヒットしてから重い引きでラインがドンドン出て行き、巻いては出での繰り返しが続く、取り込みまでの時間を楽しみました



浅野 法子 <アマミフエフキ 2.70kg>

着底してモサツとした違和感があり合わせを入れたら強烈な引き……。取り込みまで何度か糸を出されましたが、なんとか取り込みでよかったです



熊木 恵美子 <クサヤモロ 0.78kg>

シマアジ狙いの乗合船でしたが、五目釣りを楽しみました。釣った魚は干物にします



田村 紘一

<サザナミフグ 1.40kg>

膨らみすぎて水汲みバケツンから抜けなくなりました

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レンジスレコード>

<ブリ> BURI (Japanese amberjack) / *Seriola quinqueradiata*

●レンジスレコード ●59cm(叉長) ●佐賀県唐津沖 ●2025-9-28 ●立石 英彰 ●レギュラー会員 ●ウィンガー

CR



立石 英彰

<ブリ 59cm(叉長)>

渋い釣行でしたが短い時合いが来て、一本取れました。よく引くいい個体でした



ALL TACKLE FLY LENGTH RECORD <オールタックル・フライ・レンジスレコード>

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●フライ・レンジスレコード ●87cm(叉長) ●高知県浦戸湾 ●2025-4-30 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●第一進丸

WR CR

<カムルチー> SNAKEHEAD / *Channa argus*

●フライ・レングスレコード ●80cm(全長) ●佐賀県佐賀クリーク ●2025-4-18 ●斉藤 悦朗 ●鉄心倶楽部 ●ウエマルファクトリー

WR CR



田村 紘一
<スズキ 87cm(叉長)>
遠征なのにフライボックスを忘れ、現地でフライを巻いたのが功を奏したのかもしれません



斉藤 悦朗
<カムルチー 80cm(全長)>
草の間から深場に逃げたと思ったが、プレゼンテーションすると2m後ろに付いてきており、次のワンアクションでの素晴らしいアタックだった

ALL TACKLE JUNIOR <オールタックル・ジュニア>

<クエ> GROUPER, longtooth / *Epinephelus bruneus*

●M-60(130lb)クラス ●32.93kg ●東京都神津島銭洲ダルマ岩礁群 ●2025-10-12 ●村山 海斗 ●ジュニアアングラズクラブ ●第18とび島丸

J



村山 海斗
<クエ 32.93kg>
(事務局より:日本記録・オールタックル日本記録のクエとおなじ魚です。コメントはそちらをご覧ください)



10LB SEABASS CLUB <10ポンド・シーバスクラブ>

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●M-37(80lb)クラス ●5.23kg ●東京都江東区若洲釣り公園沖 ●2025-10-13 ●園部 直明 ●サバロ ●シーバスターズ

TR



園部 直明
<スズキ 5.23kg>
約1年ぶりのポートシーバス釣り。加藤キャプテンおすすめの大型ペンシルベイトを投げ、なんと早朝の1投目に自己新記録が出ました。シーバスフライ大会に参加する友人のプラを兼ねての釣行でしたが、フライを投げる前に釣れてしまいました



METER OVER CLUB <メーターオーバークラブ>

<アカメ> LATES, Japanese / *Lates japonicus*

●M-60(130kg)クラス ●130cm(全長) ●高知県四万十川下流 ●2025-8-29 ●新居 浩史 ●レギュラー会員

TR



新居 浩史
<アカメ 130cm>
8月遠征最終日、9インチのビッグベイトで流していると強烈なバイトとともに、フルドラッグを引き出されました。ランディングしてみるとJGのタグが確認でき、自己記録更新の喜びと驚きでいっぱいでした。かつてタグ&リリースしてくれた方に感謝するとともに、その重要性を再確認しました



ASSOCIATE MEMBER LIST

賛助会員メンバーズ・リスト



ユニコン エンジニアリング(株)



YASUDA SHIPYARD CO., LTD.



賛助会員募集

「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典
1. イベント後援 JGFA後援規定に基づくイベントをサポートいたします。
 2. 市場調査への協力 会員に向けて商品テスト・モニター・アンケート実施時にご協力します(諸費用実費)。
 3. 会員登録 貴社の代表者・担当者2名をJGFAおよび国際的な釣り団体IGFAの会員として登録。個人会員と同等の特典を得られます。
日本記録を狙ってみたいかがでしょうか。
 4. 各イベント参加への優遇 JGFAフィッシングキャンプのブース出展料無料など、主催イベントへの参加を優遇いたします。
 5. 広告および紹介
 - 会報「JGFA NEWS」への社名広告掲載
 - イヤープック「賛助会員紹介ページ」に貴社を掲載
 - JGFA公式サイトにバナーリンクを掲載
 - 会員にむけてDMサービスの協力(諸費用実費)

会費 1口 100,000円(1口以上)

備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカー式スバゲティタグもダートタグSも、協会が購入する原価でセットあたり4000円します。年間250セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様へお願いです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただけませんか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力をお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞご検討を。

銀行名: みずほ銀行 恵比寿支店
口座名: 「タグ アンド リリース活動資金」
口座No: (普) 1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、ご協力くださいますよう、お願いいたします。(順不同・敬称略)

日付	タグ&リリース寄付者リスト	
2025/11/20	丸山 宏幸(正会員)	6,000
2025/12/12	田中 滋(ジャパンビルフィッシュクラブ)	6,000
2025/12/17	山内 一美(ファイティングロッダーズ)	3,000
	合計:	15,000